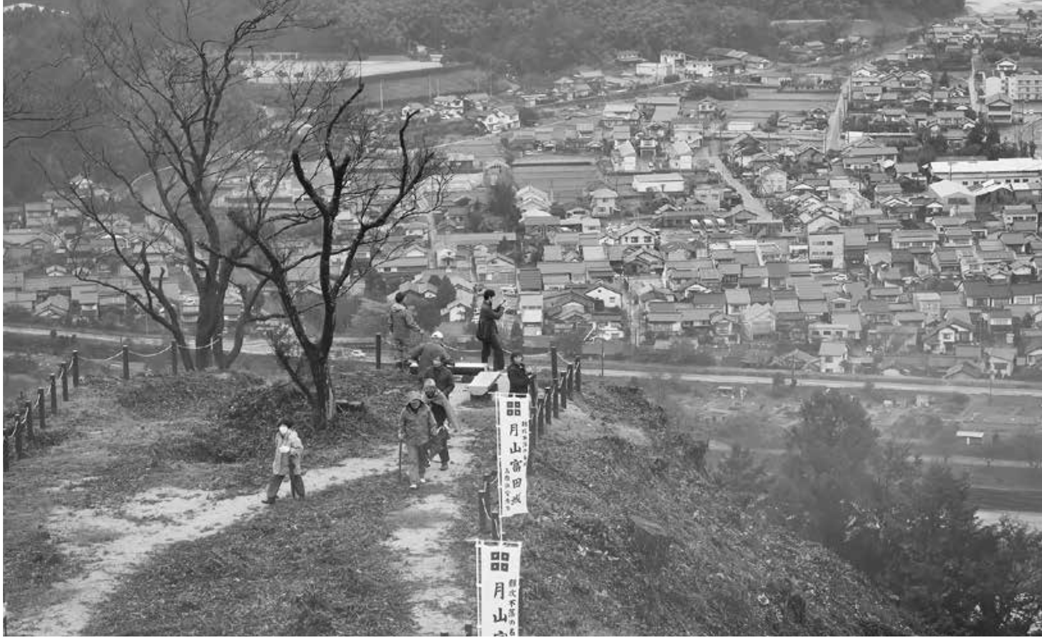
新しいまちを創る

シリーズ③

富田城整備事業は千畳平周辺に着手。総合文化ホール（アルテピア）と新安来庁舎は順調です。

この連載では、市内で進んでいる3つの大型事業（富田城・総合文化ホール・新安来庁舎）の現在の様子や進み具合、今後の予定などをお知らせしています。



▲三の丸から「西袖ケ平」越しに広瀬の町を望む。これまで木々に埋もれていた曲輪が姿を現しました。（平成28年11月撮影）

富田城整備事業
雨天時も安全に登城

平成27年度から5カ年計画で進めている富田城整備事業。山頂部から七曲り（登山道）までの工事が終了し、昨年11月末から山頂への登頂が可能になりました。冬季でも天気の良い日には多くの皆さんが山頂に立っている姿が麓からでも見ることができます。

今回の工事では、三の丸の下に広瀬の町に突き出たような「西袖ケ平」と呼ばれる曲輪が出現（写真参照）。城郭の見どころが一つ増えました。

三の丸から本丸にかけては注意喚起柵を新たに設置。急峻な山城を安全に見学することができます。また、雨上がりなどは転倒の危険が高かった登山道である七曲りも整備。道の位置は変更することなく、安全に登ることができるように整備しています。滑り止めの工夫も施してあるので、雨天時でも安全に登城が可能になりました。

今後進めていく工事は、主に「千畳平」や「馬乗馬場」周辺に移ります。石垣保護のため木々の伐採や新たな曲輪の整備を進める計画です。かつて、麓からでも確認できた千畳平の石垣群が、往時のように姿を現すことになります。

工事期間中は工事用道路の建設のため、一部立ち入り禁止区域になります。見学にご不便をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

▲整備された七曲り登山道。登る人と降りる人とのすれ違いも十分にできる幅になりました。段差も低く抑えてあり、山頂に登城しやすくなりました。

総合文化ホール整備事業
旧市民会館の陶板を再利用

2月から予約受付が開始された総合文化ホール「アルテピア」は、今年の9月に開館します。開館にあたっては、市民の皆さんとともに開館を盛り上げ

◀アルテピア小ホールの壁面には、旧市民会館で使われていた錦山焼の陶板1402枚が再利用されています。炎をモチーフにしたデザインとなって来場者を迎えてくれます。

ていこうと、皆さんが企画する開館記念事業の募集が計画されています。

工事現場では、建築工事が終盤を迎え、併行して駐車場の整地も進みます。一月末時点の建物全体の工事進捗率は約70・5％。開館に向けて順調です。

正面右側の小ホールでは、内壁工事の仕上げ作業中。ここでは、旧市民会館のロビー壁面に使われていた地元の窯元「錦山焼」のタイルが再利用されています。同窯の代表的な色である辰砂釉（しんしゃ）が、再び「アルテピア」でよみがえります。

アルテピアのロゴマークの色彩は赤色。たたら製鉄の炎と中海に映える夕日をイメージしています。このコンセプトにぴったりの陶板はアルテピアの雰囲気に彩を添えてくれることでしょう。

アルテピアのロゴマーク（実際は赤色）

新安来庁舎 フロアを見渡せる設計

現庁舎の隣りで工事が進む新安来庁舎の建設現場。現在は外壁工事をほぼ終え、外側を覆っていた足場の解体が始まっています。外壁は、鉄の質感のあるタイルを使い、「安来らしさ」を表現しています。市街地に立つ庁舎は周辺の景観と調和し、落ち着きを演出します。

一方、内部では、下層階から壁や天井の仕上げ工事が急ピッチで進められています。市民の皆さんの利用が多い窓口部門を中心に配置する1階は、広々としたフロアにしています。見渡せることで各種の手続きの窓口がどこにあるかすぐに分かるようにしています。また、待ち合いや申請時の記入場所などを十分に確保した配置とする計画です。

新庁舎は環境にやさしい構造です。事務室の窓からは春や秋などの季節には自然風を採り入れることができ、窓には日射熱を抑えるガラスを採用しています。

2月からはエレベーターや自家発電設備の設置を進めています。災害による停電時でも電力が確保でき、業務に支障のない計画になっています。

今後は、内部設備の設置工事や外構工事を進めていく予定です。新安来庁舎は5月末に建物が完成し、7月末から業務を開始する予定です。

（上）内装工事が進む新安来庁舎の１階部分。フロア全体を見渡せる広々とした空間です。（下）１階の窓口付近の完成予想図。申請書などを記入するスペースを十分に確保する計画です。